

適応外使用医薬品の情報公開文書

実施内容	せん妄に対する薬物療法における抗精神病薬の適応外使用
適応外使用する医薬品の成分(代表的な医薬品名)	トラゾドン(デジレル、レスリン)、バルプロ酸ナトリウム(デパケン)、抑肝散、リスパリドン(リスパダール)、クエチアピン(セロクエル)、オランザピン(ジプレキサ)、ヒドロキシジン(アタラックス-P)、ハロペリドール(セレネース)、ペロスピロン(ルーラン)、アリピプラゾール(エビリファイ)
本治療の対象者	せん妄と診断された患者、またはせん妄を発症する可能性が高い患者
承認日	2025年11月1日
対象期間	承認日以降継続的に使用(必要に応じて見直しを行う)
概要	<p>せん妄は、手術や入院など普段と異なる環境に置かれることで、時間や場所などの認識が一時的に低下し、ぼんやりしたり、興奮・錯乱などの情緒変化を伴う状態です。特に高齢者に多く見られ、大半は数日で改善しますが、錯乱状態により転倒や点滴の自己抜去など、治療の妨げとなる行動を起こす場合があります。</p> <p>せん妄の治療には多様な薬剤が用いられます。そのうち一部は保険審査上、せん妄に対する適応外使用が認められています。その他の適応外の薬剤についても、ガイドラインや学術論文で有効性が報告されています。</p> <p>当院では、これらの薬剤を患者さんの状態に応じて適切に選択し、治療を行います。</p>
予想される副作用と対策	<p>ふらつき、傾眠、不整脈、悪性症候群(高熱・強い筋肉のこわばり・意識障害など)、糖尿病の悪化など。</p> <p>重篤な副作用が生じないように、患者さんの状態を継続的にモニタリングし、異常が認められた場合は速やかに適切な対応を行います。</p>
問い合わせ先	<p>聖母病院(代表)TEL:03-3951-1111</p> <p>担当医師へお取次ぎします。</p>